

目標達成計画

作成日: 令和5年4月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23-25 36-40 48,55	認知症を持つ人へのケアについて、職員それぞれの経験や研修で得た知見を元に真摯に取り組んでいるが更に研鑽が必要である。4年度に取り組んだユマニチュードは公式な研修が年度後半から中止されたため、その間は独自に作成したビデオや書籍等資料を元にした研修となった。	認知症についての外部研修を受講し、それを共有しながら内部の研修を重ね、認知症ケアを向上させるよう取り組む。特にユマニチュードについて力を入れて研修に取り組む。	1. 未受講者は認知症実践者研修を受講する。 2. 5年度に再開されたユマニチュードの公式研修を受講し、職員間で共有する。 3. 所内研修で認知症ケアを取り上げる。 4. 各研修で得られた知見を職員間で共有し、実践する。	10ヶ月
2	42	利用者の口腔ケアについては、利用者の状態に応じて、洗口、歯磨き、義歯洗浄など実施している。歯科医師を受診した場合は、指導を受けてケアに生かしているが、全利用者について歯科衛生士の指導を受けるまでには至っていない。	専門的な見地から口腔ケアの見直しを行い、口腔衛生、食事、栄養、健康面の改善を図る。	1. 利用者ごとの現状の口腔ケアの課題を挙げる。 2. 現状の口腔ケアの課題について歯科衛生士に相談し指導を受ける。 3. 一定期間、指導に従った口腔ケアを実施する。 4. 一定期間後、再評価を行う。 5. 以上をPDCAサイクルとして2回程度実施する。	10ヶ月
3	特別の 番号なし	利用者の移動、移乗介助については、業務提携する訪問看護ステーションの作業療法士や看護師の助言を受けながら、職員、利用者双方にとって負担が少なく、安全に安楽に行われるよう工夫しているが、更に改善してゆきたい。	移動動作、移乗動作において、福祉用具の使用、ボディメカニクスを応用するなどして、職員、利用者いずれにも安全で安楽に行われるように、介助動作の改善を図る。職員の腰痛防止、「持ち上げないケア」にも生かす。	1. 移動、移乗動作について利用者ごとの課題を挙げる。 2. 課題を業務提携する訪問看護ステーションの作業療法士または理学療法士から指導を受ける。 3. 一定期間、指導に従った方法を実施する。 4. 一定期間後、再評価を行う。 5. 以上をPDCAサイクルとして2回程度実施する。	10ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。